

PRESS RELEASE

金沢21世紀美術館 2024年度事業のご案内

2024 ▶ 25

開館20周年

New humanity

アートと新しいエコロジー

動物・植物・モノなど全てを含んだ新しい人の属性



今年20周年をむかえる金沢21世紀美術館のプログラムのコンセプトは、新しい人間性を探るための「アートと新しいエコロジー」です。過去2年間、「歴史との対話」、「現代のテクノロジーとの関係」というテーマを経て、その総集編を迎えます。今、私たちをとりまく新たなエコロジーとは？ 自然環境や社会、情報環境の変化によって、私たちはこれまでとは異なる視点や考え方が求められています。

金沢市は多くの庭や巧みな用水の循環によって都市と人、文化と自然の関係を形成してきました。当館は2004年の開館以来、現代美術、建築、デザイン、工芸など多様な分野の創造活動を紹介し、交流プログラムも含め市民との交流や相互理解に努めてきました。20周年はこれまで築いてきた文化のエコロジーを検証するとともに、現代の緊急の問題にも対処し、思慮深く、創造的な提案の年となります。今年1月の震災により当館の建物も一部被災しました。私たちは自然環境の脅威とともにあること、共生やレジリエンスによりこれらを乗り越えていかねばならないことを再確認しました。

再開を飾る企画展は、コレクションを含めた「ラインズー意識を流れに合わせる」展です。この展覧会では、「線ーライン」を、動的なジェスチャーや異なる空間や概念をつなぐ存在として捉え、多面的で発展的な世界のつながりを作品を通じて示します。続く「すべてのものとダンスを踊ってー共感のエコロジー」という20周年記念企画展では、言葉のコミュニケーションを超え、五感と直感を駆使して、生きとし生けるものがダンスを踊るようにつながっていく共感のエコロジーを模索します。この展覧会では、哲学者や科学者、建築家などと協働し、ヴィジョンを共有する世界各地の芸術家たちが集結、未来への共存を提案するプラットフォームを構築します。

もう一つの見どころは、大規模に展開されるコレクション展です。開館当時200点から始まり、現在は4,200点に達した当館のコレクションを通じ、美術館の歴史とアイデンティティを再確認します。

さらにプログラムは美術館の壁を超え街でも展開されます。「アートで巡る発酵ツーリズム」では、金沢の醸造蔵の協力を得てインスタレーションを巡る旅を提案、金沢の海と発酵文化の知恵と歴史を探求します。その他にも、インクルーシブシアタープログラムやフォーラム、レジデンス、ミュージアムクルーズなど、さまざまな交流プログラムのほか、20周年を機に編集する出版物など、美術館での体験やストーリーをみなさんのものとして共有できる様々な事業が用意されています。

金沢21世紀美術館館長 長谷川祐子

金沢21世紀美術館

広報担当：落合、石川 〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802 MAIL press@kanazawa21.jp

※本内容は2024年3月現在の予定です。
展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。
最新の情報は直接お問合せください。

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

アートと新しいエコロジー

2024年度は、「アートと新しいエコロジー」をテーマに開館20周年記念企画展を開催します。地球の抱える様々な問題を乗り越えるため、最新のエコロジー理論のもと、アーティストの鋭敏な感性による作品と研究者の深い洞察を、美術館らしい感覚を通じた学びの場として提示します。人間を取り巻くあらゆる存在をダンスするように共感でつなぎ、共に生きる未来の創造を試みます。

すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー—

11月2日(土) – 2025年3月16日(日)



Fabbrica dell'Aria@ PNAT
2023
©photo Takumi Ota

動物や植物、それに身近に転がる様々なモノたち。人間を取り巻く、あらゆる存在と共にダンスするように、この地球の抱える諸処の問題を乗り越えたい。金沢21世紀美術館は、開館20周年を迎える今年、「新しいエコロジー」という年間テーマに呼応して、本展を開催します。社会や精神までを含みうる、総合的なエコロジー理論の行く末を、アーティストの鋭敏な感性と観察を通じて作品として展示します。また本展では、同じヴィジョンを共有する科学者や哲学者などの研究者たちと協働し、専門的な内容を視覚化、可感化することで、感覚を通じた学び (Sensory Learning) として見るものに伝えます。辺境を含めたアフリカ、南アメリカ、アジア、欧米の芸術家、クリエイターが集い、美術館空間の中でお互いにダンスを踊るように生命と共に生き延びるための知恵を分かち合います。鈴木大拙を生んだこの金沢の地ですべてのものを包摂するヴィジョンが共生のプラットフォームとなります。

拡張するコレクション

金沢21世紀美術館では、開館前の2000年より現在まで約4,200点の現代美術作品を収蔵してきました。開館20周年を記念し、当館のコレクションを拡張して展覧する特別展「ラインズ—意識の流れに合わせる」では、線の持つさまざまな側面が私たちの生活や人間関係をどのように形作っているかを探求します。年間を通して開催するコレクション展では美術館のスペース全体を大規模に使用し、当館の20年間の歩みを振り返り、これから先の未来について語り合う機会を創ります。

ラインズ—意識の流れに合わせる

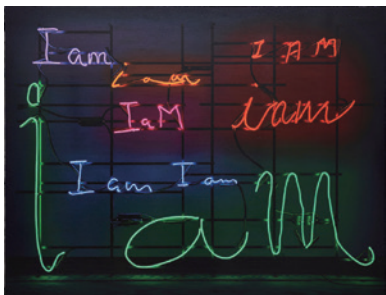
6月22日(土) – 10月14日(月・祝)



エル・アナツイ《パースペクティブ》(部分)2015
© EI ANATSUI
金沢21世紀美術館蔵
photo: KIOKU Keizo

芸術家たちが作品制作の基本要素として線をどのように使っているか、線がどのように意味、動き、感情を伝えることができるかについて探究する展覧会です。芸術的実践と生態系システムの両方に内在する流動性や、言語、自然界における役割など、線のさまざまな側面を探求し、線が私たちの生活や人間関係をどのように形作っているか、作品を通じて考える場とします。芸術表現において、線は単なる静的なマークではなく、アーティストの動きや意図を捉える動的なジェスチャーであり、異なる空間や概念の間の境界線や交差点を画定するものです。線は内と外、過去と現在、自己と他者の境界を、時には厳格に、或いは曖昧にし、様々な現象の相互関連性と相互依存性にも関係します。線を「間にある」存在として考察することで、私たちの経験、つながり、世界に対する認識を形成する線の多面的で発展的な性質についての考察も可能です。また、世界と関わり、世界に参加する方法としてのアートに焦点を与え、生きるためにさまざまな亀裂を縫い続けていく現代という時代もその先に見えてくるのではないのでしょうか。現在進行中の「なりゆき」のプロセスも含め、作品の中に様々な「線」を見出し、シンプルな線から複雑で複層的な線の絡み合いを見つけてみましょう。人間の創造的実践をより広範な文脈の中に統合すること、世界を個別の実体の集合体としてではなく、相互に結びついた生態系のプロセスの網の目として考える展覧会です。

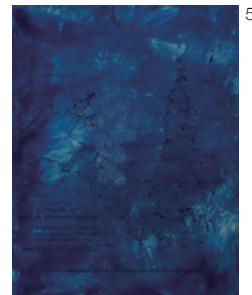
出品作家(姓のアルファベット順): エル・アナツイ、ティファニー・チュン、サム・フォールズ、マダディンキンアーシー・ジウウォンダ・サリー・ガボリ、マルグリット・ユモ、マーク・マンダース、大巻伸嗣、エンリケ・オリベイラ、オクサナ・パサイコ、SUPERFLEX、ジュディ・ワトソン、八木夕菜、横山奈美



横山奈美《Shape of Your Words [in India 2023/8.1-8.19]》2024
個人蔵
画像提供: ケンジタキギャラリー
© Nami Yokoyama
photo: ITO Tetuso



マーク・マンダース《4つの黄色い線のコンポジション》2017-2019
金沢21世紀美術館蔵
© Mark MANDERS
photo: KIOKU Keizo



ジュディ・ワトソン
《グレートアーテジアン盆地の泉、湾(泉、水)》2019
金沢21世紀美術館蔵
© Judy Watson
photo: KIOKU Keizo

コレクション展

- 1 — 6月22日(土) - 9月29日(日)
- 2 — 10月12日(土) - 2025年1月19日(日)
- 3 — 2025年2月1日(土) - 5月11日(日)



6. サラ・ジー 《喪失の美学》2004、© Sarah SZE
 7. 藤浩志 《Happy Paradises(ハッピー・パラダイズ)》2015、
 © FUJII Hiroshi, photo: KIOKU Keizo
 8. ペドロ・レイエス 《人々の国際連合 ライブラリー》2017、
 photo: KIOKU Keizo
 9. ジェームズ・タレル 《ガスワークス》1993、© James TURRELL、
 photo: SAIKI Taku
 10. 村上隆 《シーブリーズ》1992、©1992 Takashi Murakami /
 Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
 photo: SUEMASA Mareo
 11. 金氏徹平 《Endless, Nameless #1》2014、© KANEUJI Teppei
 photo: KIOKU Keizo
 12. 宇治野宗輝 《ブライウッド新地》2017-2019, photo: KIOKU Keizo
 13. 広瀬光治・西山美なコ 《ニット・パビリオン - ニットカフェ・イン・マイ
 ルーム》2009、© HIROSE Mitsuharu © NISHIYAMA Minako
 photo: SAIKI Taku
 14. 塩田千春+同田利規 《記憶の部屋について》2009、
 © SHIOTA Chiharu © OKADA Toshiki, photo: IKEDA Hiraku
 すべて金沢21世紀美術館蔵

開館20周年にあたり、一年を通して美術館の最も重要な役割であるコレクションについてご紹介する大規模なコレクション展を開催いたします。当館のコレクション活動は開館前の2000年から始まり、学芸員の調査研究に基づき毎年欠かさず新しい作品を収集してきました。開館時までに約200点あったコレクションは、現時点では約4,200点に達し、当館にとってコレクションは美術館の歴史であり、同時に美術館のアイデンティティを示すものです。金沢21世紀美術館の3つの収集方針「1. 1980年以降に制作された新しい価値観を提案する作品」「2. 1の価値観に大きな影響を与えた1900年以降の歴史的参照点となる作品」「3. 金沢ゆかりの作家による新たな創造性に富む作品」に基づき収集されたコレクションは、移り変わる時代の鏡であると同時に、積み重ねられ編まれていく表現の歴史の貯蔵庫でもあります。コレクション展は、世界を見つめ、過去・現在・未来について、共に考え語る場でもあります。展示を通して、この20年を振り返るとともに、これから先の未来について語り合える機会を創出します。

金沢21世紀美術館は、「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」であり、市民や産業界など様々な組織と連携を図り、新しい美術館活動を展開していきます。

アートで巡る発酵ツーリズム(仮)

9月21日(土) - 12月8日(日)(予定)



木桶仕込みをする大野港の味噌蔵



発酵食の町、大野を巡る人たち

開館20周年記念となる2024年度は、金沢の醸造蔵の協力を得て、アート・デザインと発酵食、まち歩きが結びついた新たなツーリズムを提案します。醤油や日本酒など日本を代表する発酵食の文化。なかでも金沢はカブにブリを挟み、糎で漬けた「かぶらずし」やフグの卵巣を糠に漬けてみ解毒する「ふぐのこ」など、海の文化が育んだ独自の発酵文化が根付き、数百年の歴史を宿す醸造蔵が数多くある街です。発酵を司る微生物という存在、美味しい発酵食品を生み出す水や風に恵まれ、そして戦争や災害を生き延びた数百年間の人々の暮らしの記憶。食と歴史、気候風土が一体になった「文化のぬかどこ」金沢で、醸造家とアーティストが手を組んで発酵をテーマに作品をつくりあげます。

会場も美術館に留まらず地域そのものが主役に。金沢21世紀美術館をチェックイン場所とし、ひがし茶屋街、大野港、野町、石引の各エリアと金沢周辺の醸造蔵にインスタレーションが設置されます。街を歩き、醸造蔵に宿る微生物や歴史に出会い、美味しい味覚とともにあなたの感性を醸す旅へ出発！

招聘キュレーター:小倉ヒラク(発酵デザイナー)

共同キュレーター:ドミニク・チェン(発酵メディア研究者/ Ferment Media Researcher)

地域コーディネーター:山本耕平(醸造家)



発酵を文化として展示で紹介



人と会話できるぬか床ロボット
「Nukabot」(Ferment Media Research)
撮影: 関谷直任



かぶらずし

芸術交流事業

金沢21世紀美術館では、市民をはじめ、多様な価値観や背景を持つあらゆる人々が主体的に参加できる事業を実現し、美術館を介して、人と人、人と地域が有機的につながっていく、出会いと交流の「場」を共創します。

ステージー見る、聴く、語る

インクルーシブ・シアター・プログラム

舞台『家電の王子さま』(作・演出:ピンク地底人3号)

11月22日(金) - 24日(日)



20

[参考画像]
ワークショップ「手・顔・からだの動きで伝える／伝えるコミュニケーションをみんなで作ろう」(2023年7月)
撮影:中川暁文

「誰にとっても来館しやすい、楽しい美術館はどんな場所?」というテーマについて、地域の人々と活動してきた金沢21世紀美術館。耳が聞こえない「ろう俳優」と舞台を創作している劇作家で演出家のピンク地底人3号氏を招き、今年度は新作舞台『家電の王子さま』を制作・上演します。障害の有無を問わず、舞台芸術を身近に感じ、楽しむ人が増えることを願い、子どもから大人まで、ろう者・難聴者・聴者を対象に出演者を募るワークショップを行います。

芸術交流共催事業

&21+ アンド21プラス

2025年3月に1公演(予定)



22

津田道子「and run」
レクチャーパフォーマンス

多様で実験的なプレゼンテーションを美術館が支援します。主にシアター21で行うジャンル不問の公演事業を公募し、有識者による選考を経て採択された事業を共催事業として実施します。関連企画としてワークショップやアウトリーチも併せて実施し、アーティストとまち、人との相互の交流を促進します。また公演には高校生を無料招待するなど、若者層の鑑賞者育成にもつなげています。

2024年度実施団体 K-Zone. 「“祈りの音(とき)”を聴く～Listen to the Sound of Prayer～」(2024年3月に実施予定だった公演を2025年3月に延期予定)

フォーラム・アール これからを話そう

年4回(予定)



21

2023年度「フォーラム・アール」vol.2(恵谷浩子)の様子

様々な分野の専門家をゲストにお迎えし、世界への新しい視点や考え方を紹介してもらったプログラム。美術館の専門スタッフがトークの聞き手を務め、「学び語り合う場」を開くために参加者とともに「少し先の未来」との向き合い方を考えるワークショップやディスカッションの時間も設けています。「コミュニケーション・サポート」と題して館内託児室の案内や手話通訳を配置するほか、個別の支援要望にも対応していきます。

高校生[15-18歳ユース]対象

劇的!バスツアー2024

9月・11月(予定)



23

ロームシアター京都 太陽劇団「金夢島」上演後に、演出家・劇団主宰のアリアヌ・ムヌーシュキン氏とのトークセッション

高校生の劇場での舞台芸術鑑賞を支援する旅行型鑑賞プログラムです。高校生は低額な料金でツアーに参加でき、舞台公演を見ることができます。鑑賞に付随して、ナビゲーターによるプレトークや演出家、俳優などのトークセッション、劇場の裏側を見学するバックステージツアーなども併せて実施します。豊かな劇場文化との出会いを補完するとともに、文化芸術に関わるプロフェッショナルな人や仕事を知るという意味でも貴重な機会となっています。

アーティストと作るプログラム

AIR KANAZAWA

エアー・金沢

通年



24

ティファニー・チュンによる
ウツカガ（金武大川、沖縄
県金武町）の調査の様子

国内外からヴィジュアル・アート、音楽、パフォーマンス・アーツの分野におけるアーティストや、自然科学、哲学、歴史、文学など様々な学術研究に関わるキュレーター、研究者などを招いて、滞在交流をしながら制作、リサーチ、フィールドワーク、ワークショップ等を行うアーティスト・イン・レジデンスのプログラムです。

2024年度のレジデント（滞在者）※予定：岡田利規（日本）

アウトリーチ・プログラム

通年



25

2019年度 自治体 金石大野
芸術計画 にわ部「ポット
ラック・パーティ」

美術館内外で、金沢市とその近郊にいるそれぞれの専門家とともに活動し、インクルーシブな美術館の可能性をさらに高めていくプログラム。美術に限らず舞台芸術家、音楽家、建築家などさまざまな分野の専門家とともに、美術館内だけではなく、福祉施設や商店街といった多様な場所で事業を展開し、地域の人を巻き込みながら、美術館と地域との新たな関係を模索していきます。

市民に開かれた美術館をめざして

市民美術の日 オープンまるびい 2024

11月3日（日・祝）（予定）



「まるびいみらいカフェ ランタンワークショップ」の様子

26 「広場」のような美術館を金沢市民にもっと身近に感じて楽しんでもらうための一日。金沢市民が主催展覧会を無料で観覧できる上、市民専用のカウンターを設け身分証を提示いただいた市民の方にスムーズに入館いただくなど、気軽に来てもらうためのシステムを設けます。その他ギャラリートークや館内ツアー、ワークショップなどの大人から子供まで楽しめるプログラムを、日頃より当館で活動するボランティアメンバーや、地域の方々とスタッフが協力して行い、美術館に関わる人たちと市民来館者が交流する場をつくります。

市民に開かれた美術館をめざして

まるびい みらいカフェ

部員募集:4月 / 活動:通年



27

「まるびいみらいカフェ」メンバー

「まるびい みらいカフェ」は市民が美術館の未来を描く活動として2014年度から継続しています。さまざまな世代の人々が美術館に親しみ、美術館を活用することを目指します。地域の人々からなるメンバーは美術館や街の未来について共に語らい、ワクワク・ドキドキするような企画を自主的に考えて実現します。2023年度はアーティストの日比野克彦さんと一緒に「明後日朝顔プロジェクト」の朝顔の種子を育てました。2024年度はまた新たなメンバーと人と地域と美術館をつなぐ活動を展開していきます！

広坂シネマクラブ

部員募集:4月 / 活動:通年



28

「フィルム上映会について話そう」の様子

映画をテーマに金沢21世紀美術館に集った多世代で多様なボランティアメンバーが、地域の映画文化振興のために様々な企画を主体的に実施していく部活動です。映画監督との映像制作ワークショップや、フィルム上映、ユニバーサル上映の勉強会と実践など、部員同士でアイデアを出し合い活動をおこなっています。一人でいつでもどこでも映画を楽しめる時代だからこそ、美術館で映画を誰かと一緒に「見る・作る・見せる」活動を通して、映画の素晴らしさを市民から発信していきます！

教育普及プログラム

金沢市内小学4年生全児童招待プログラム

ミュージアム・クルーズ

7月－9月、11月－2025年1月



29

2023年度「ミュージアム・クルーズ」の様子
(コレクション展2:電気・音
展示会場)

金沢市内で学ぶ小学4年生を学校ごとに美術館へ招待するプログラム。少人数グループでコレクション作品の鑑賞や敷地内を散策する機会を通じて感じる心を養い、地元の美術館に慣れ親しむ機会を設けています。開館以来、金沢市教育委員会や作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」などの協力を得ながら、「金沢で生まれ育った子どもはみな、美術館へ行ったことがある」という環境を継続的に実現しています。

中学生まるびいアートスクール

「考え方を考える」

8月－2025年1月(予定)



30

2023年度
ワークショップの様子

金沢市内の中学生とアーティスト、学校、美術館が共同でワークショップを行います。アーティストの世界の見方に触れながら、自分自身のことや世界にあるもの、社会の出来事などを自らの視点で見つめ、考え、思いを表現し、それらの成果を展示会や記録集などの形で公開します。

教育普及プログラム

キッズスタジオ・プログラム

【毎週土曜・日曜、祝日】

休日プログラム「ハンズオン・まるびい!」

【毎週火曜～金曜の平日】

平日プログラム「まるびい すくすくステーション」

【毎月】絵本を読もう



31

2023年度「ハンズオン・まるびい!」の様子

「ハンズオン・まるびい!」では子どもたちが造形活動や作品鑑賞を楽しみます。「まるびい すくすくステーション」では平日の美術館を小さなお子さんとの散歩コースとして楽しめるよう子育て広場としてオープンします。

アートライブラリー・プログラム

毎月1回



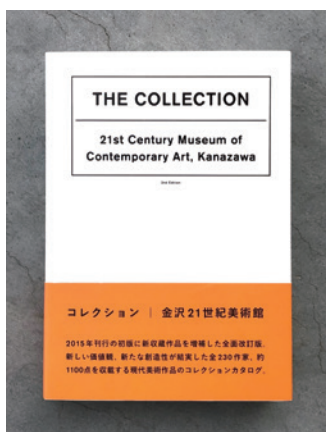
32

2023年度「絵本を読もう」の様子

『絵本を読もう』は、絵本を楽しみながら美術館に親しめるプログラムです。

展覧会やテーマに沿った絵本の読み聞かせを行ったあと、担当キュレーターやエドゥケーターとともに作品鑑賞や造形活動、美術館の探検等を行います。絵本を通じて作品との新たな出会いや発見を促し、子どもから大人まで美術館を楽しめる機会とします。

20周年記念 出版刊行物



コレクション | 金沢21世紀美術館〈第3版〉

2024年6月発刊予定

金沢21世紀美術館のコレクションストーリー(仮)

2024年10月発刊予定

美術館活動の中心をなすコレクション形成。当館は新しい価値観を提案する作品、歴史的な参照点となる作品、金沢ゆかりの新たな創造性に富む作品という方針のもと、国内有数の現代美術のコレクションを築いてきました。コレクション・カタログは、これまでに収蔵された作品の情報や解説、そしてすべてのアーティストについての解説を収録します。金沢21世紀美術館のコレクションストーリー(仮)は、開館から20年を迎えるいま、同時代のアートと並走してきたコレクション形成の過程を紹介しながら、当館の歴史、さらには日本や海外のアート・シーンを振り返ります。

33

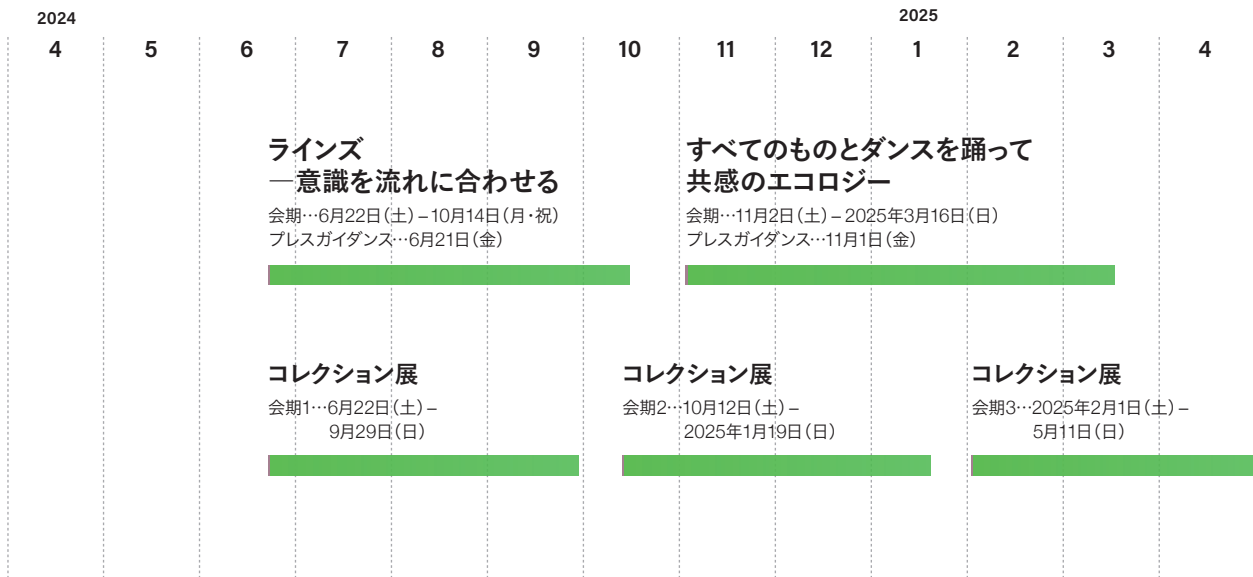


キッズ・アート・レシピブック(仮)

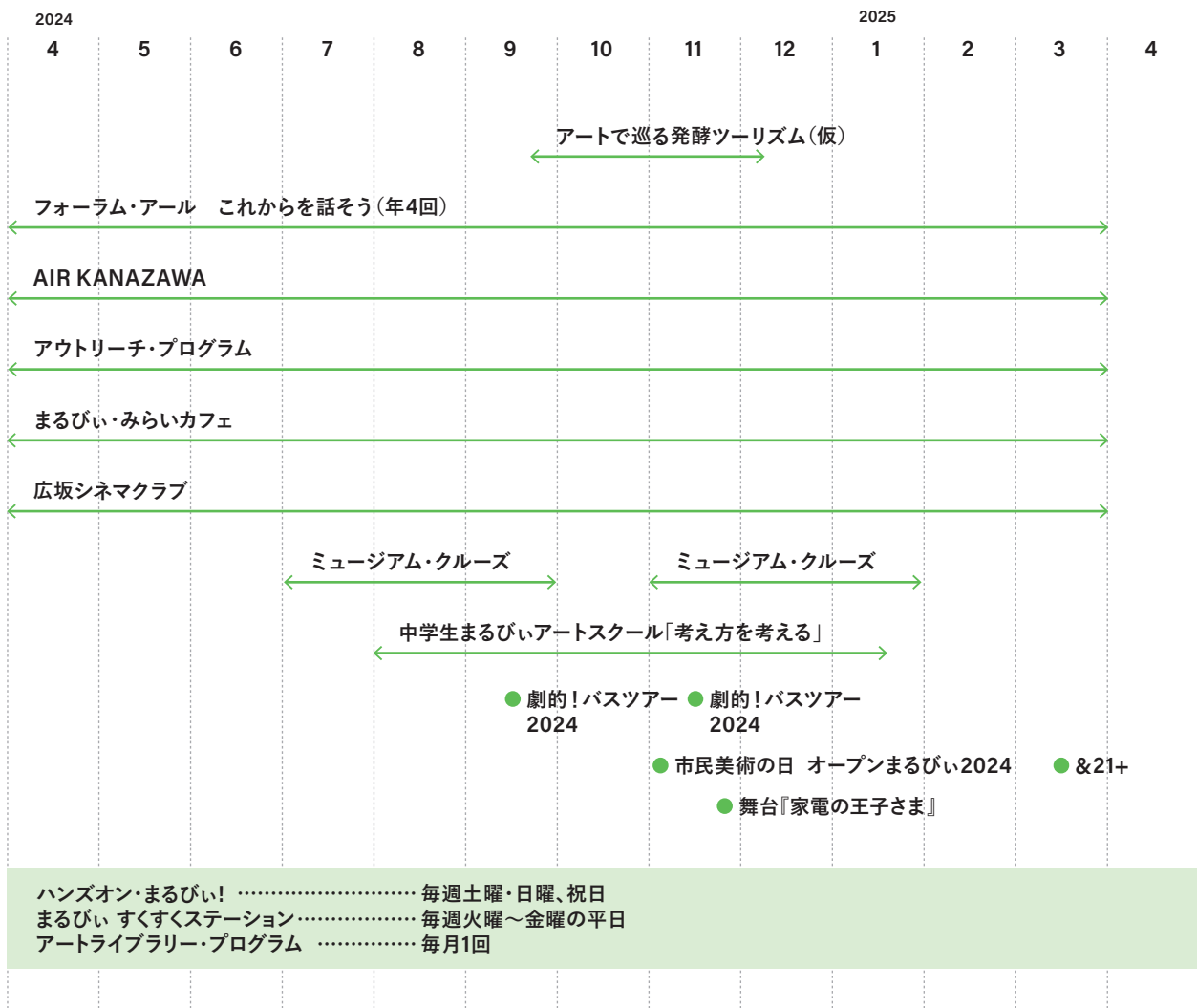
2024年11月発刊予定

当館では「子どもたちとともに、成長する美術館」という理念の基、開館以来20年間キッズスタジオを中心にさまざまな形で子どもたちの造形表現のプログラムを展開してきました。そこで培ったアイデアや技法を家庭や施設などでさらに活かしていただけるよう、レシピブックの形でご紹介します。

展覧会スケジュール



芸術交流事業スケジュール



※本内容は2024年3月現在の予定です。展覧会名やイベント名、会期などに変更になる場合があります。最新の情報は直接お問合せください。

料金表

展覧会名	会期	料金 (カッコ内:WEB販売料金)				団体料金 (20名以上)		
		一般	大学生	小中高生	65歳以上	一般	大学生	小中高生
ラインズ —意識の流れに合わせる	6月22日(土)– 10月14日(月・祝)	1,200円 (1,000円)	800円 (600円)	400円 (300円)	1,000円	1,000円	600円	300円
すべてのものとダンスを踊って 共感のエコロジー	11月2日(土)– 3月16日(日)	1,400円 (1,100円)	1,000円 (800円)	500円 (400円)	1,100円	1,100円	800円	400円
コレクション展	1: 6月22日(土)– 9月29日(日) 2: 10月12日(土)– 1月19日(日) 3: 2月1日(土)– 5月11日(日)	450円	310円	無料	360円	360円	240円	無料

※ WEB販売チケットは、当館WEBサイトからご購入いただけます(販売開始日は各展覧会によって異なります)。

※ コレクション展は同時期開催の特別展チケットで観覧できます。

広報用画像

画像1～33を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、

当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※ 広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※ トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※ 情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※ アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。